

## 生命のみなもと・水と旅して水マップをつくろう！

対象：一般

人数：25名程度

教科/分野：

授業時間数：1. 5時間×4回（1日3時間×2日、または1日1.5時間×4日）

場所：室内、椎津川上流、河口干潟、浄水場

ESD プログラムへの 想い	海岸の埋立て以降に姉崎で生まれ育った世代が地域の海の存在に気づき、森川海つながり、豊かさ、大きさ（危険）を体感できるようになることを願います。		
目標	学習者が自分の生活及び足元の自然における水循環を体感する。 学習者が地域の森川海に親しむ体験をする。 流域（集水域）を理解し、水害が起こる仕組みを体感する。		
特徴	体験学習・グループ学習を取り入れ、知識を提供するのではなく、参加者それぞれが体験や対話から、自由に感じ、学び取っていただくことを目指しています。また、自分が住んでいる身近な自然、生活の中の自然（水）で学ぶことで、ふるさとの自然に触れ、愛着が生まれる機会となればと願います。		
持続可能な社会づくりの 構成概念	多様性：身近な自然における多様な生きもの、多様な生態系（上流域と河口干潟）、多様な個性・意見に触れる機会がある。 相互性：上流から河口までを連続してみることで、水循環を実感できる。 有限性：生活排水は海に流され、また雨となって地上に落ちてくる。地球上の有限な水が、循環していることを実感できる。 責任性：私たちの使った生活排水が海に流れていることを実感できる。		
重視する能力・態度	③多面的、総合的に考える力：水マップづくり、他のグループの発表を聴く ⑤進んで参加する態度：グループ学習、クラフトなどの創作、発表 ⑥つながりを尊重する態度：水マップづくり、グループ学習、地域の歴史学習		
プログラムの流れ			
時間	ねらい	方法 場所	内 容
1.5 時間	水循環を体感する。	グループワーク 室内	有秋地区の水マップをつくる。 <b>雨水</b> ：地域の地形、流域（集水域）を知り、雨水の流れ、木があるところ裸地、アスファルトの水のしみこみ、保水の違いを考え（緑のダム）、川の増水・氾濫の仕組みを体感する。 <b>生活用水（上下水道）</b> ：上水がどこからくるか。下水がどこでどのように浄水されて川や海に流されているか。

1.5 時間	川の流れて沿って歩く。地域の自然、歴史に触れる。	椎津川上流	<p><b>雨水</b>：有秋中学校～堀の内橋まで歩き、川の護岸、湧水、田、湿地を見て水マップに書き込む。雨が降ってもすぐ川に流れこまず、保水されてから川に流れ込むのを感じ取る。</p> <p><b>生活用水（多様な生活用水・下水処理）</b>：堀の内橋付近の農村集落を訪れ、そこで生活する森林インストラクターから昔の暮らしの中の水の話聞く（湧水や川の水を生活用水にしていたこと、今も井戸水、浄化槽を使用しているのを見る）。</p>
1.5 時間	川が海に注ぐのを見る。	椎津川河口付近  または松ヶ島浄水場	<p><b>雨水</b>：アネッサ～河口まで歩く。水が運搬した土砂の堆積によって海岸埋立て後に人工水路にできた河口干潟を見る。汽水域のカニや、上流域との植生の違いを見る。海の直前の河口付近にペットボトルなどのプラスチックごみがたくさん流れ着いているのを見る。</p> <p>または<b>生活用水（下水）</b>：松ヶ島浄水場見学。私達が使った水が最後には浄水場を経て、海に放水されていることを目と足で確認する。</p> <p>水マップに見たものや気づいたことを書き込んでおく。</p>
1.5 時間	ふりかえり	グループワーク 室内	これまで作ったマップを完成させる。これまでの気づきをクラフト、詩、物語、寸劇などから自分で選んで創作し、発表する。
SDGs との関連性	6、11、13、14、15、17		
学校・地域等との連携上の考慮	地域をよく知る集落出身者が案内しますので、地域との交流の機会にできます。		
対象を発展させる可能性	学校からのご依頼があれば、学年に応じ、また、授業内の時間で行えるよう内容をアレンジしてご要望に沿って対応することが可能です。		
その他 補足事項	水マップ：模造紙、マジック クラフト：粘土、折り紙、段ボール、画用紙、絵の具など		

プログラム作成者名（団体名）：平野なおみ（みらい seeds（椎津川水系と里山を愛する会））